

7. 堰と周辺地域との関わり

7.1 堰周辺の概況

7.1.1 堰周辺地域の概要

(1) 概要

九頭竜川流域は、本州日本海側のほぼ中央にあり、福井県嶺北地方に位置している。流域には、福井市をはじめ福井県の7市4町と岐阜県郡上市の一部が含まれている。流域面積は、福井県面積の約70%に相当する2,930km²である。また、山地と平地の割合は、福井平野などの平地が約22.2%であり、残りの約77.8%が山地である。

流域の主流である九頭竜川は、幹川流路延長116kmを有し、北陸地方屈指の大河川であるとともに、この地域を代表する「母なる川」として古くから人々の生活と密接な関わりを持ち、親しまれてきた河川である。九頭竜川の源は、福井県と岐阜県の県境の油坂峠（標高717m）に発し、九頭竜峡谷を経て大野盆地を北流し、大野市と勝山市との境付近で左支川真名川を合わせ、永平寺町鳴鹿にて福井平野に入り、そこから西流する。そして、福井市高屋において左支川日野川を合流し、流れを北西に転じ坂井市で日本海に注いでいる。

鳴鹿大堰は、九頭竜川の河口から約29km上流に位置しており、洪水の安全な流下と利水補給を目的としている。堰およびその貯水池の右岸側は坂井市、左岸側は永平寺町であり、下流には福井市が位置している。

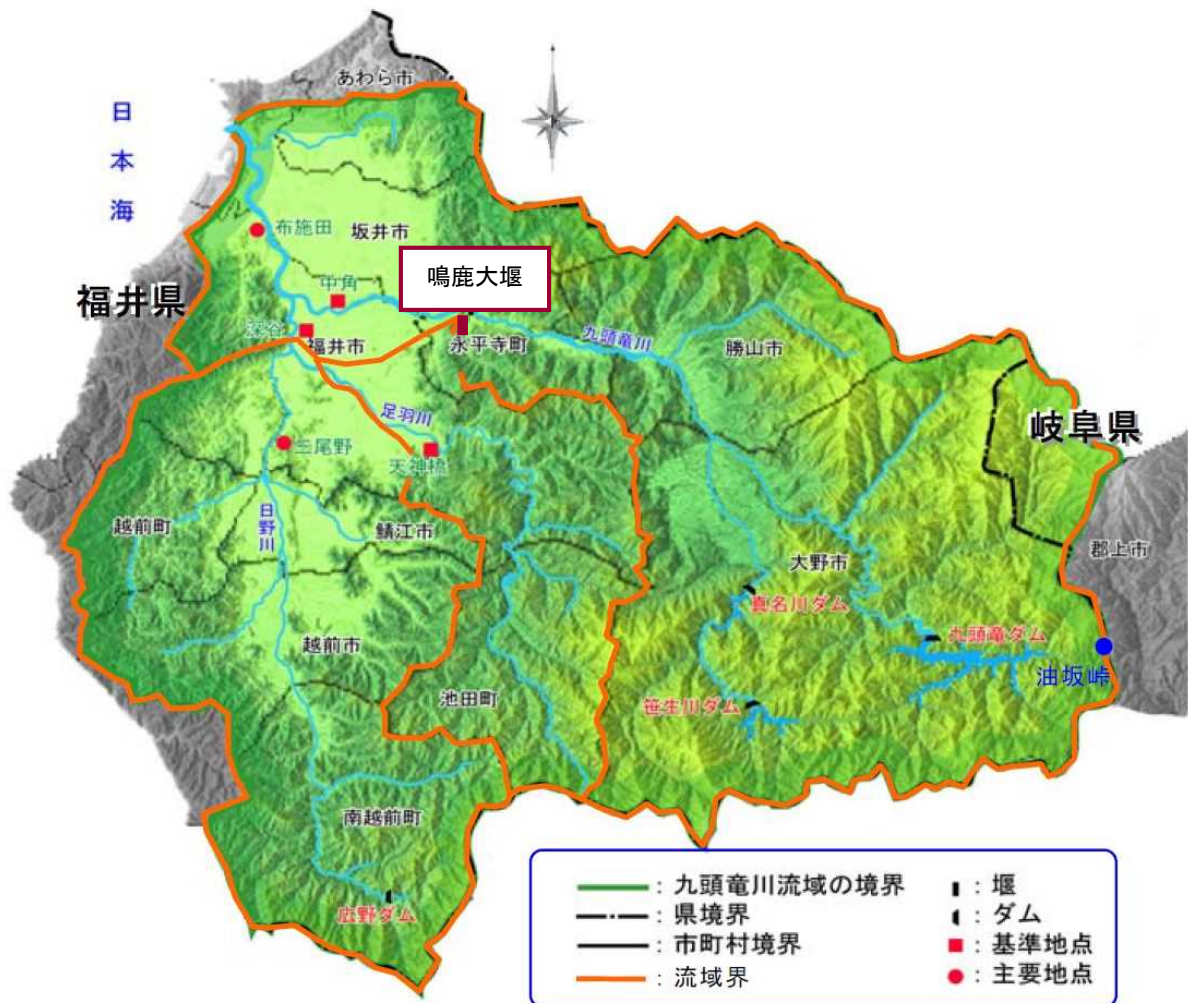


図 7.1-1 鳴鹿大堰周辺の概況

【九頭竜川水系河川整備計画、平成19年2月】

7. 堰と周辺との関わり

(2) 人口

九頭竜川流域内に位置する市町村、並びに福井市、坂井市、永平寺町における人口と世帯数の昭和30年(1955)から令和2年(2020)までの間の推移は、以下に示すとおりである。

流域内に位置する市町村の人口は昭和30年には約66万人であり、微増傾向を示してきたが、平成12年の約73万人をピークに近年では減少傾向に転じている。一方で、世帯数は増加傾向を続けており、核家族化が進んでいることが伺える。

また、鳴鹿大堰の近隣の市町村では、福井市が平成7年、坂井市が平成17年、永平寺町が平成12年にそれぞれ人口のピークを迎え、その後、減少に転じている。

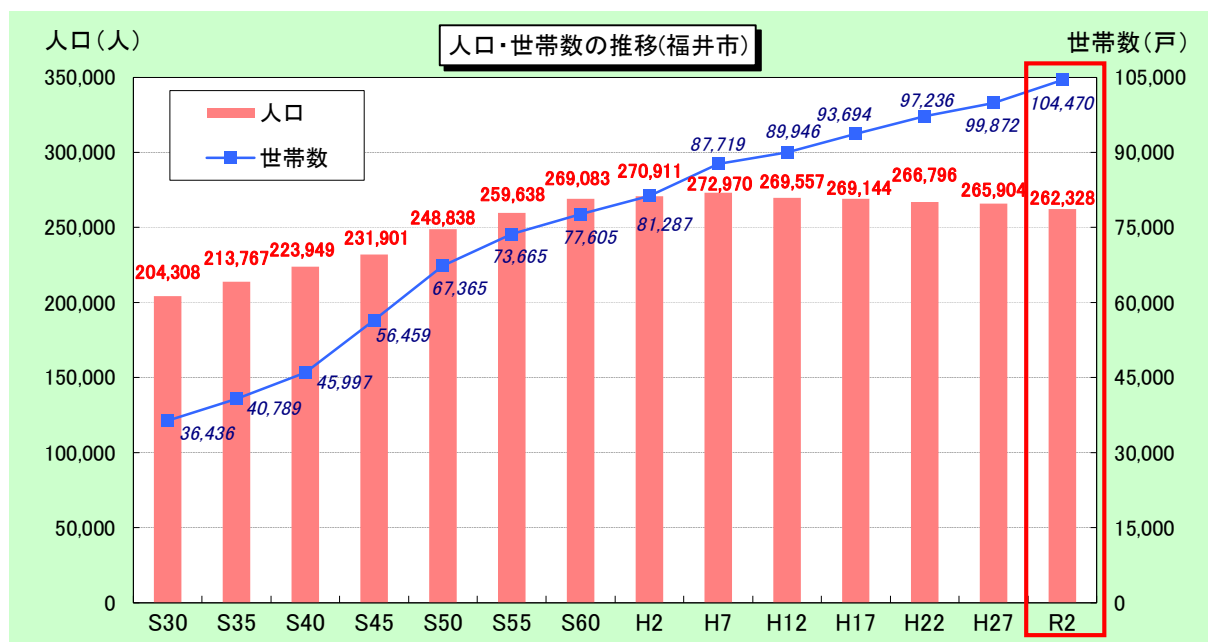
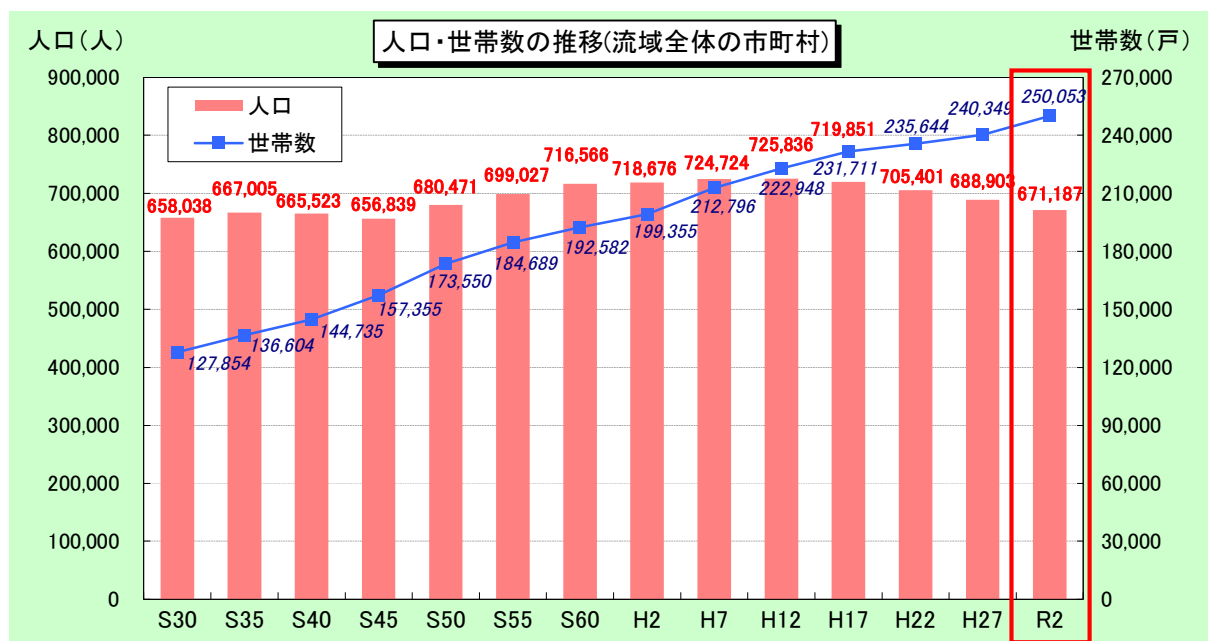


図 7.1-2 人口及び世帯数の推移(1)

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑、岐阜県統計書】

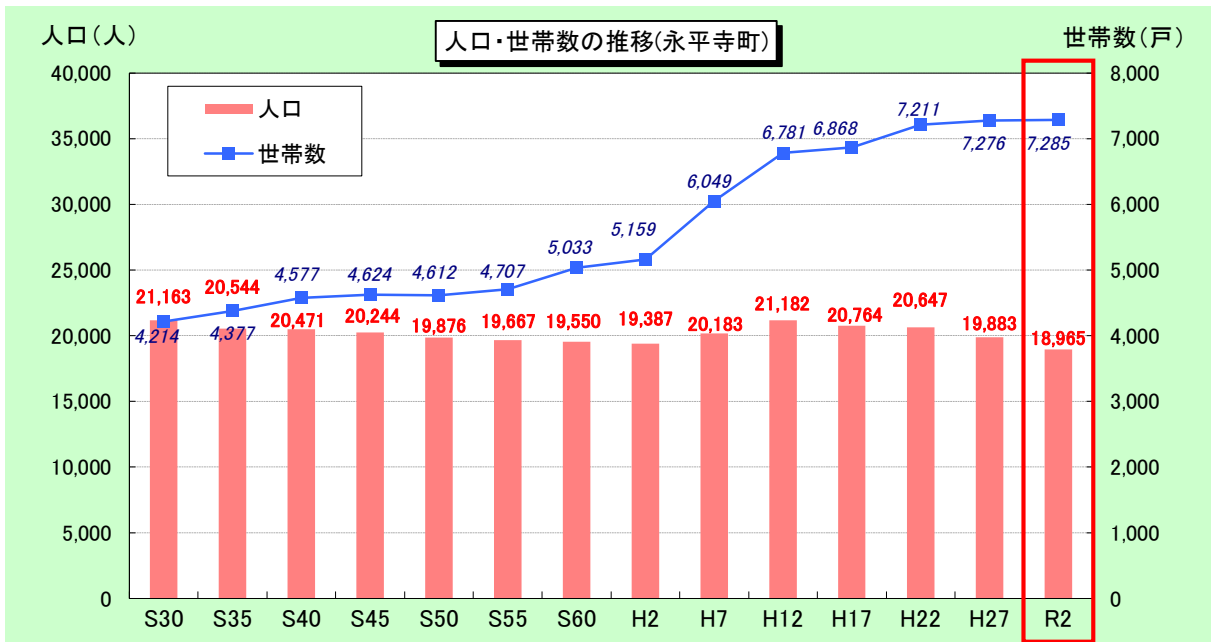
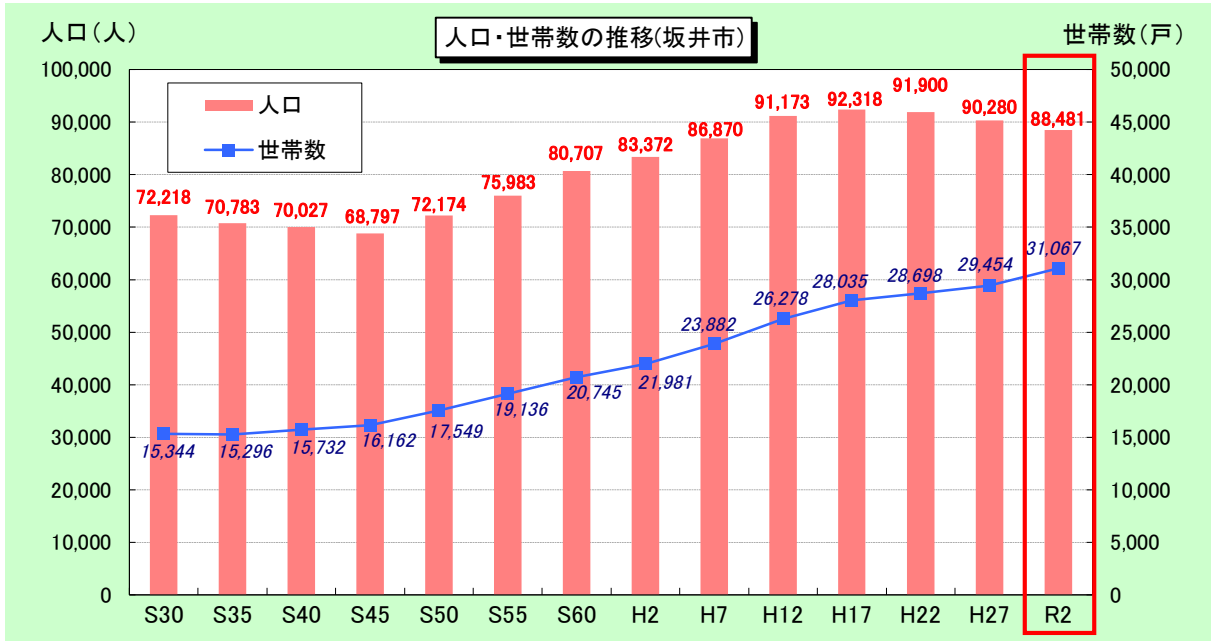


図 7.1-3 人口及び世帯数の推移(2)

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑】

(3) 産業

流域内に位置する市町村、並びに福井市、坂井市、永平寺町における産業別就業人口の昭和40年(1965)から令和2年(2020)までの間の推移は、以下に示すとおりである。

就業者人口は、流域全体および福井市、永平寺町においては、平成7年をピークに減少傾向を示しているが、福井市では令和2年に増加に転じている。坂井市では福井市等からの移住者等により、平成17年までは増加傾向にあったが、平成22年には減少に転じ、近年は増減を繰り返している。

産業別では、令和2年には第3次産業が全体の約60%強を占めており、第2次産業が30%強、第1次産業が約3%を占めている。近年の増減傾向を見ると、いずれの自治体でも1次産業、2次産業の就業人口は減少しており、3次産業は平成27年と比べると、福井市では増加し、坂井市と永平寺町では減少している。

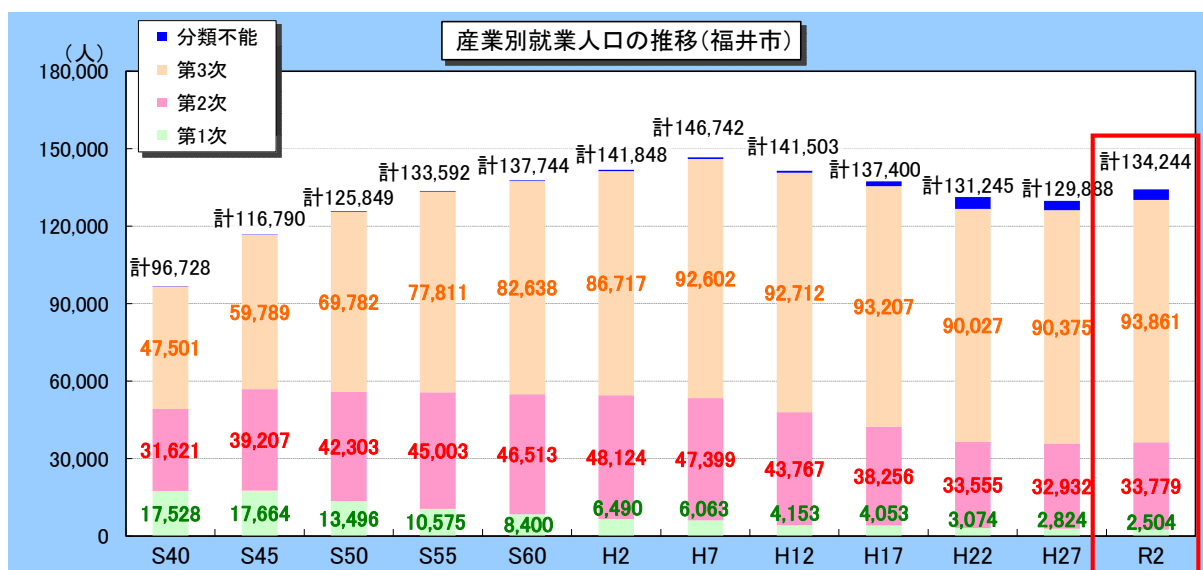
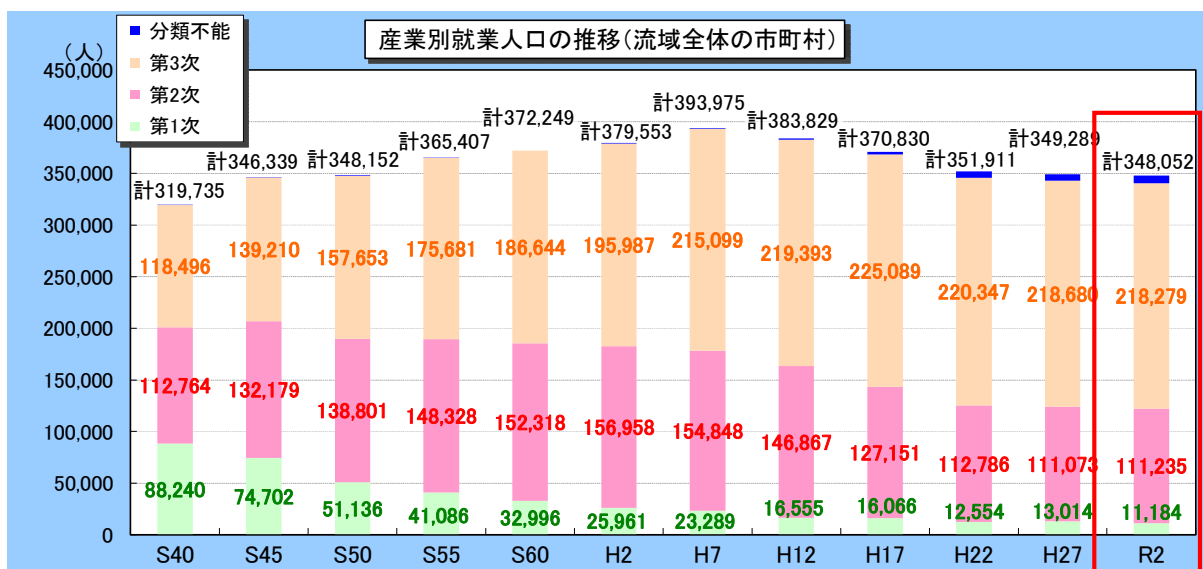


図 7.1-4 流域全体及び福井市の産業別就業人口の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑、岐阜県統計書】

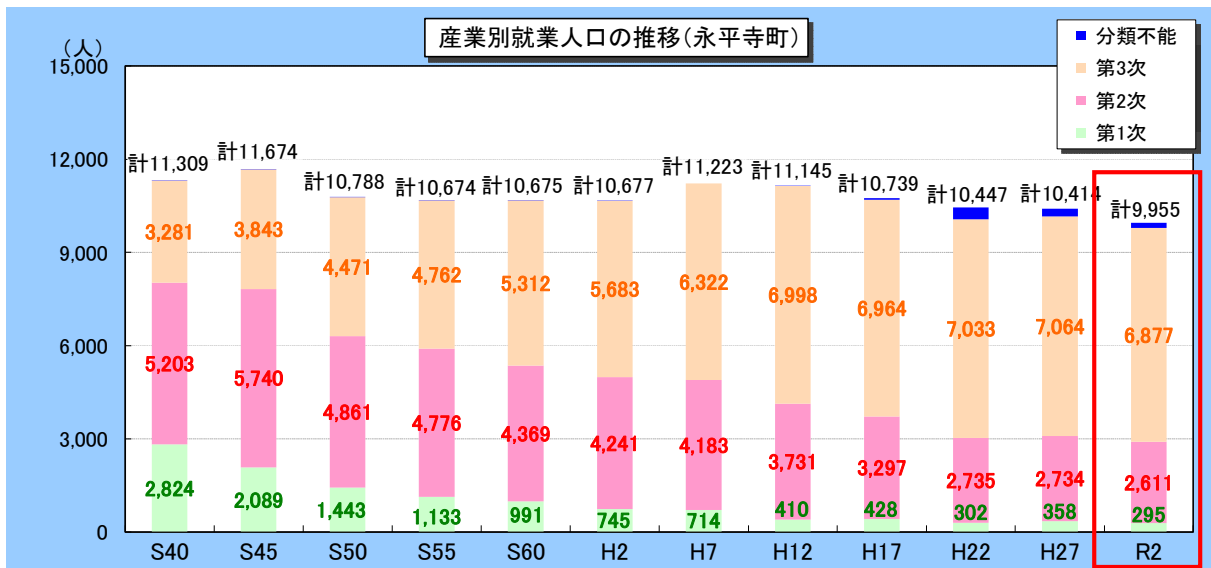
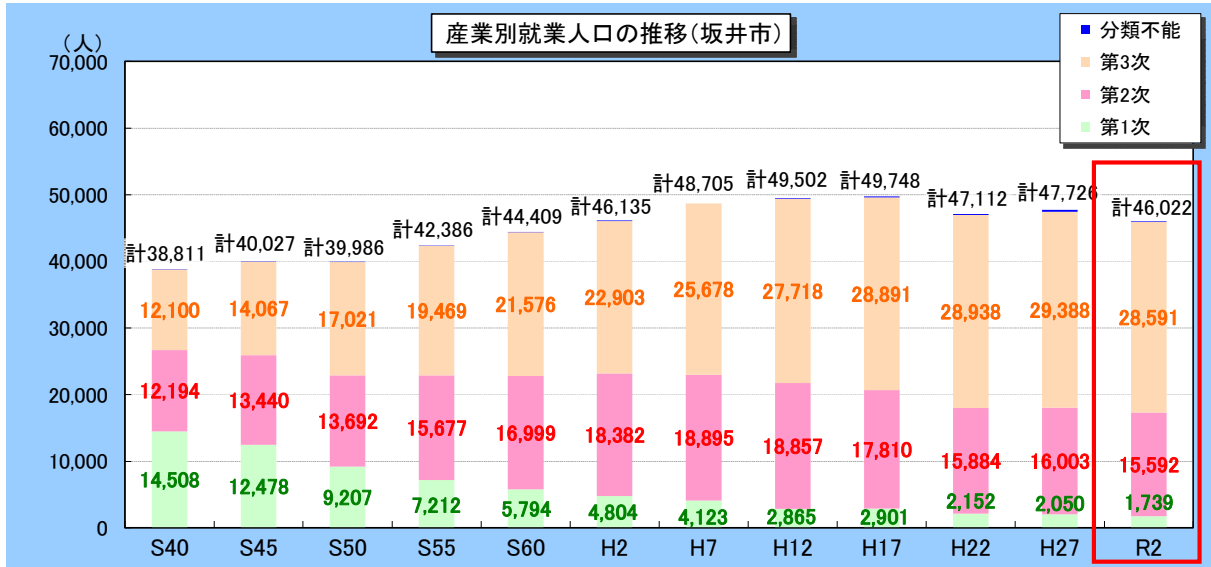


図 7.1-5 坂井市及び永平寺町の産業別就業人口の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑】

定期報告書

7. 堰と周辺との関わり

7.1.2 堰の立地特性

(1) アクセス性

鳴鹿大堰は、九頭竜川の河口から約 29km 上流の坂井市と永平寺町の境に位置している。

鳴鹿大堰付近の交通網は図 7.1-6 に示すとおりであり、道路としては国道 416 号及び 364 号が近接して通り、堰の西には北陸自動車道が南北に、南には永平寺大野道路(中部縦貫自動車道)が東西に走っている。鉄道としては、堰の西方約 9km の地点を南北に JR 北陸本線が通り、福井駅から勝山へ向かう「えちぜん鉄道・勝山永平寺線」が九頭竜川の左岸沿いを通っている。

鳴鹿大堰へのアクセスは、鉄道利用ではえちぜん鉄道勝山永平寺線永平寺口から徒歩 15 分、車では北陸自動車道福井北インターチェンジから国道 416 号を通り約 8 分(約 4km)、JR 福井駅から約 20 分(約 11km)となっている。



【出典：近畿地方整備局管内道路網図】

図 7.1-6 鳴鹿大堰周辺の交通網

(2) 周辺の観光施設（スポット）等の状況

九頭竜川流域は、歴史・文化や水と緑などの自然に恵まれた観光地が多く点在し、令和4年には年間約2,061万人(福井県全体の約2,834万人の約73%)の観光客が訪れており、その代表的な観光資源としては以下が挙げられる。

【九頭竜川流域の代表的な観光資源】

天下の絶景として有名な東尋坊、全国的にも名高いあわら温泉をはじめとする各地の温泉、中世を今に伝える一乗谷朝倉氏遺跡・永平寺・平泉寺・丸岡城、恵まれた森と水を生かしたアウトドアレクリエーションが満喫できる九頭竜湖と九頭竜国民休養地や六呂師高原などといったキャンプ村・スキー場、北陸の秋の風物詩として人気の高いたけふ菊人形、広大な芝生の中にパットゴルフ場やオートキャンプ場などがあり1年中楽しめるレジャーランドの芝政ワールド、恐竜に関する国内最大級の規模を誇る福井県立恐竜博物館、等が挙げられる。



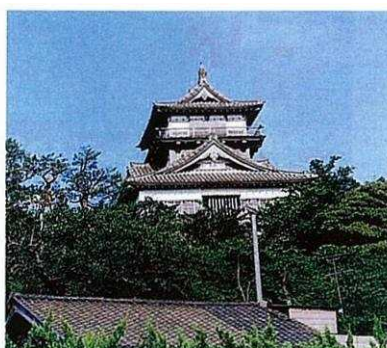
図 7.1-7 主な名所・旧跡及び古社寺等の位置

表 7.1-1 観光入込の推移

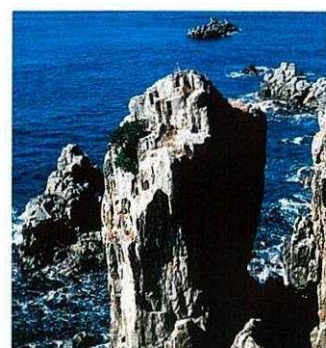
年次	観光入込客数(千人)		
	福井県全県	九頭竜川流域	全県に占める割合
H30	32,437	23,704	73.1
R1	34,859	24,496	70.3
R2	21,834	15,232	69.8
R3	22,848	16,386	71.7
R4	28,339	20,607	72.7



大野城(大野市)



丸岡城(坂井市)



奇岩・奇磯が連なる東尋坊
(坂井市)



西山公園(鯖江市)



プラントピア(越前町)



謡曲「花筐」の舞台ともなった花筐公園
(越前市)



狭野茅上娘子と中臣朝臣宅守との相聞歌碑が建つ味真野苑
(越前市)



白山平泉寺(勝山市)

【出典：九頭竜川流域誌 水との闘い そして共生】

定期報告書
7. 堰と周辺との関わり



足羽川左岸堤防の桜(福井市)



勝山橋上下流の弁天堤の桜(福井市)



福井県総合グリーンセンター(坂井市)



福井藩主の菩提寺である大安禅寺
(福井市)



歴代藩主の廟所がある千畳敷
(福井市)



一乗谷で復元された武家屋敷と町屋
(福井市)



江戸中期の代表的庭園養浩館
(福井市)



三間社流造りの滝谷寺(坂井市)



曹洞宗大本山永平寺(永平寺町)



複雑な形をした屋根の大滝神社
(越前市)



江戸初期の秀麗な姿をとどめる劔神社
(越前町)



楼門形式の山門のある宝慶寺
(大野市)



継体天皇を合祀する三国神社(坂井市)



継体天皇を合祀する足羽神社(福井市)

【出典：九頭竜川流域誌 水との闘い そして共生】

定期報告書

7. 堰と周辺との関わり

7.2 堰事業と地域社会情勢の変遷

鳴鹿大堰関連事業と地域社会情勢の変遷の概況は表 7.2-1 に示すとおりである。

表 7.2-1 鳴鹿大堰事業と地域社会情勢の変遷

年	鳴鹿大堰関連事業	地域の出来事
H元	5月 実施計画調査に着手。 福井工事事務所に開発調査課(鳴鹿大堰担当)設置。 九頭竜川本川区域延長1.6km。合計31.2kmとなる。	福井市市制100周年記念式典 福井市都市景観基本計画策定
H2	1月 九頭竜川中流堰建設促進期成同盟会が発足 6月 九頭竜川鳴鹿大堰建設事業に着手 12月 大野市がダム使用権設定について申請書提出	足羽川・足羽山公園が「日本の桜百選」に選定、桜つつみ事業着手
H3	11月 基本計画告示(事業費280億円、工期平成8年度)	足羽山トンネル完成 一乗谷朝倉氏庭園が国の特別史跡に指定
H4	11月 鳴鹿大堰起工式 右岸取水施設改築工事着手	第四次福井市総合計画スタート
H5	3月 左岸取水施設改築工事着手	
H6	3月 九頭竜川鳴鹿大堰本体着工 本体ゲート着工	すかっとランド九頭竜オープン
H7	3月 中部漁業協同組合と、漁業補償の契約を締結 4月 九頭竜川鳴鹿大堰定礎式 6月 本体内右岸部概成 10月 本体内左岸部概成	
H8	6月 堰本体概成	
H9	3月 九頭竜川鳴鹿大堰建設に伴う鳴鹿頭首工(取水施設を含む)の工事施行の変更協定書を締結。	
H10	2月 基本計画変更が官報告示される。	
H11	3月 試験湛水(暫定運用)開始 通水式挙行 10月 旧堰撤去(左岸部)工事着手	
H12	8月 左岸魚道完成	
H13	6月 旧堰撤去(右岸部)完了	
H14	4月 資料館がオープン	21世紀を拓くふくい創造プラン (第5次福井市総合計画)スタート
H15		えちぜん鉄道全線開通
H16	3月 竣工	福井豪雨災害発生

【出典：九頭竜川鳴鹿大堰工事誌、福井県ホームページ】

7.3 堰と地域の関わりに関する評価

7.3.1 地域における堰の位置づけに関する整理

(1) 坂井市総合計画

平成 18 年 3 月 20 日、旧三国町、旧丸岡町、旧春江町、旧坂井町は、地理的、歴史的特性を共有しつつ、地域の特性を活かしながらより広域的な視点でまちづくりを推進していくことを目指して合併し、「坂井市」が誕生した。坂井市では、市の行政運営の指針となる「坂井市総合計画」を平成 20 年 3 月に策定している。

同計画では、まちづくりの方針として 3 つの軸を定めており、そのうち「水と緑の交流軸」では、福井県のシンボル河川である九頭竜川等を活かし、親水空間などの整備に努め、水と緑の交流軸を形成していくとしている。

また、平成 25 年 3 月には、平成 25 年度から平成 29 年度を計画期間とする坂井市総合計画後期基本計画を策定しており、基本構想で定めている 8 つの施策の大綱を実現するために、前期基本計画の達成状況の検証、施策体系の見直し等を実施している。

● 3つの軸

■にぎわいの連携軸

東西に長い坂井市の一体性や連携を強化するため、東西方向の骨格道路網を形成し、住民相互の日常的な交流や文化交流などを促進するとともに、坂井市の活力を創造する都市活動、観光交流などを展開します。

■南北交流軸

一般国道 8 号をはじめとする南北方向の骨格道路網を充実し、地域や圏域を越えた広域的な交流を推進していきます。

また、坂井市域内においても幹線道路の拡幅整備や沿道環境整備に努め、住民相互の日常的な交流や文化交流などの促進、活力を創造する都市活動などを展開し、市域内の連携と一体性を高めていきます。

■水と緑の交流軸

緑豊かな森林地域を源流とする竹田川や福井県のシンボル河川である九頭竜川、坂井平野を潤す数々の河川、さらには農業用水路のパイプライン化にともなう跡地を活かし、散策路や自転車道、親水空間などの整備に努め、水と緑の交流軸を形成していきます。

図 7.3-1 坂井市総合計画 まちづくりにおける 3 つの軸

【出典：坂井市総合計画後期基本計画 平成 25 年 3 月】

(2) 第二次永平寺町総合振興計画

永平寺町では、平成 29 年度以降 10 年間のまちづくりの指針を示した「第二次永平寺町総合振興計画」を平成 29 年 3 月に策定している。

同計画では、「めぐる感動 心つながる清流のまち えいへいじ」をまちづくりの将来像に掲げ、九頭竜川等の観光資源活用の推進、九頭竜川における内水面漁業の振興などに関する施策を示している。

【出典：第二次永平寺町総合振興計画 平成 29 年 3 月】

7.3.2 地域と堰管理者の関わり

福井河川国道事務所では、鳴鹿大堰と九頭竜川に親しみながら自然を学ぶための環境学習を実施しており、地域との交流を図っている。

7.4 堰周辺の状況

7.4.1 堰周辺の施設状況

(1) 概要

鳴鹿大堰周辺の施設としては、九頭竜川に関するさまざまな資料を展示している九頭竜川流域防災センター、階段式魚道の様子がみられる魚道観察室、旧鳴鹿堰堤の堰柱を利用して造られた見学橋、鳴鹿橋上流部左岸側(30.5～30.9km付近)に設けられたビオトープ等を整備した。

(2) わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)

「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」は、鳴鹿大堰左岸にある鳴鹿大堰管理所脇に建設され、平成14年4月27日にオープンした。この資料館は、地域の子供たちが九頭竜川について体験的に学べるよう九頭竜川に関する様々な資料を展示するとともに、九頭竜川流域の方々が集える場所として活用することを目的としている。また、土日祝日についてはNPO法人「ドラゴンリバー交流会」に依頼して運営している。



図 7.4-1 わくわく RiverCan の外観



図 7.4-2 わくわく RiverCan の館内案内

(3) なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン

「なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン」は、鳴鹿大堰管理所1階のエントランス部を利用した展示施設である。鳴鹿大堰管理所エントランス部は、完成当初より鳴鹿大堰の役割やしぐみについて解説するための展示スペースとして利用されていたが、平成17年度に展示内容の更新が行われ、より一層充実した内容となった。

展示は鳴鹿大堰の歴史、鳴鹿大堰の役割、鳴鹿大堰魚道のしぐみについて解説するものであり、電動模型や映像などを活用し、子供から大人まで楽しめる内容となっている。



映像による鳴鹿大堰の紹介や模型展示によるゲートの解説



鳴鹿大堰魚道の縮小模型およびライブ映像の放映

図 7.4-3 「なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン」

(4) 魚道観察室

鳴鹿大堰には、階段式魚道、人工河川式魚道(平常用)及びデニール式魚道(渇水時の呼び水水路の水量減少時)の3種類の魚道が設けられており、魚が魚道をのぼっていく様子を観察できるように、階段式魚道の横に観察室が設置されている。魚道観察室は一般に開放されており、九頭竜川流域防災センターと一体の運営が行われている。また、魚道にはライブカメラが設置されており、わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター) の中からも魚道の様子を観察することができる。

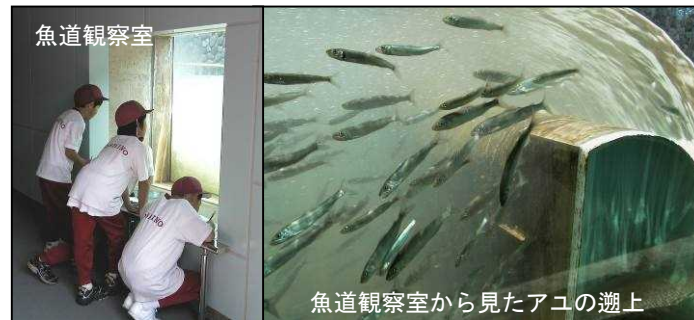


図 7.4-4 魚道観察室

(5) 見学橋

旧鳴鹿堰堤は、昭和 29 年に完成し、福井平野の利水にとって約半世紀の歴史ある施設であったため、利水の歴史を残す意味からも、旧鳴鹿堰堤関連施設のうち、利用可能な管理橋・堰柱を完全に撤去せず、見学橋としてほとんど原形で使用している。

見学橋からは、堰直上流から鳴鹿大堰を眺望することができ、全国的に見ても珍しい施設である。



図 7.4-5 一般解放区及び見学橋の外観

7.4.2 堰周辺の施設の利用状況

(1) 施設の利用状況

「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」の平成 14 年 4 月 27 日の開館から令和 4 年 3 月 31 日までの入館者数の推移を以下に示す。

令和 4 年度は 5,389 人が利用しており、平成 14 年 4 月 27 日の開館以来の総入館者数は 10 万人を超え、令和 4 年度には累計 180,849 人となった。年間の入館者数は、広報 P R の休止、イベントの減少、開館日の減少等が要因で平成 21 年以降は減少したが、平成 28 年以降は NPO 法人ドラゴンリバー交流会等と協働した運営によるイベントの増加や開館日の増加、広報 P R の再開に伴い、減少傾向にあった入館者数に歯止めがかかり、やや回復しつつあった。

しかし、令和 2 年に新型コロナウイルスの関係で一時休館することとなり、令和 2 年度は大幅に入館者数が減少したが、令和 3、4 年度に JA 福井と FM 福井のコラボ企画「アグリ探検ツアー」内でわくわく RiverCan の見学があったことや、新型コロナウイルス関係も落ち着いたことにより、入館者数は増加し、令和 2 年度の休館前よりも増加している。

利用者の年齢層をみると、近年大人の割合が高くなっているが、本施設は子供から大人まで幅広い年齢層に利用されていることが分かる。月別入館者数をみると、大型連休のある 5 月と夏休みの 8 月に多く、12 月から 2 月の冬期に少なくなる傾向がみられる。

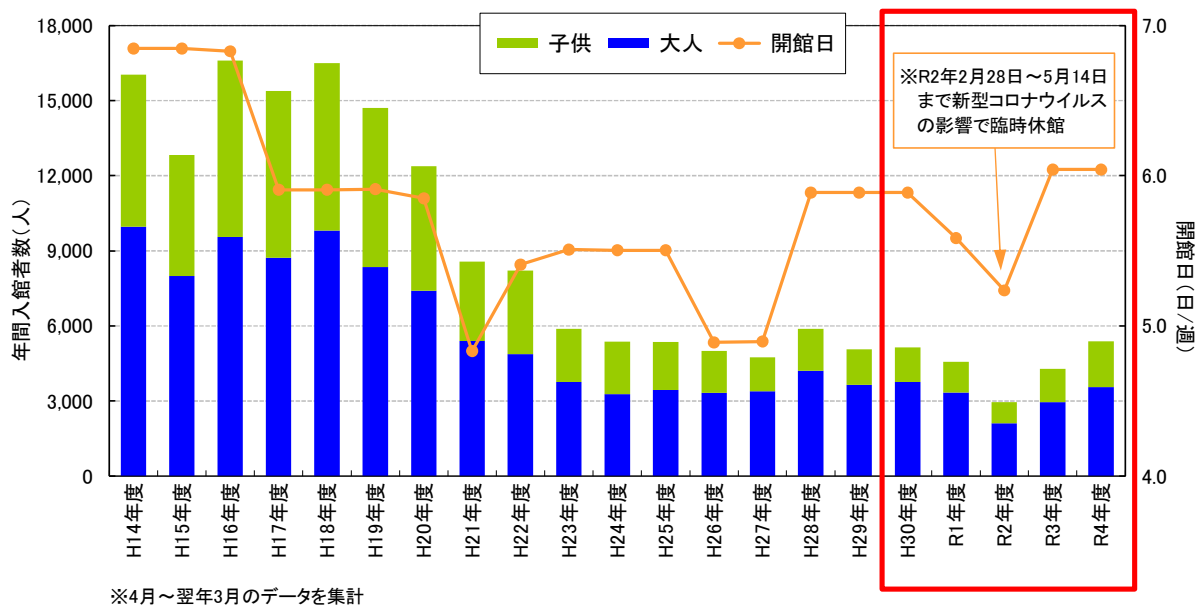


図 7.4-6 わくわく RiverCan(九頭竜川流域防災センター)入館者数(H14年度～R4年度)

7. 堰と周辺との関わり

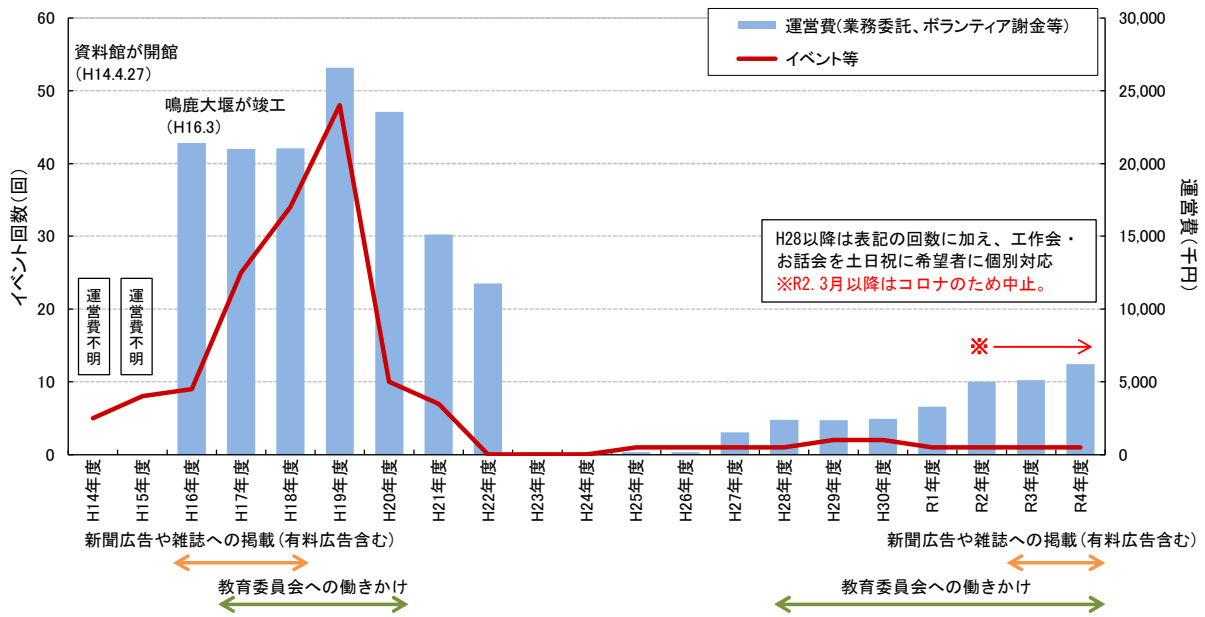


図 7.4-7 わくわく RiverCan(九頭竜川流域防災センター) の運営費およびイベント実施状況

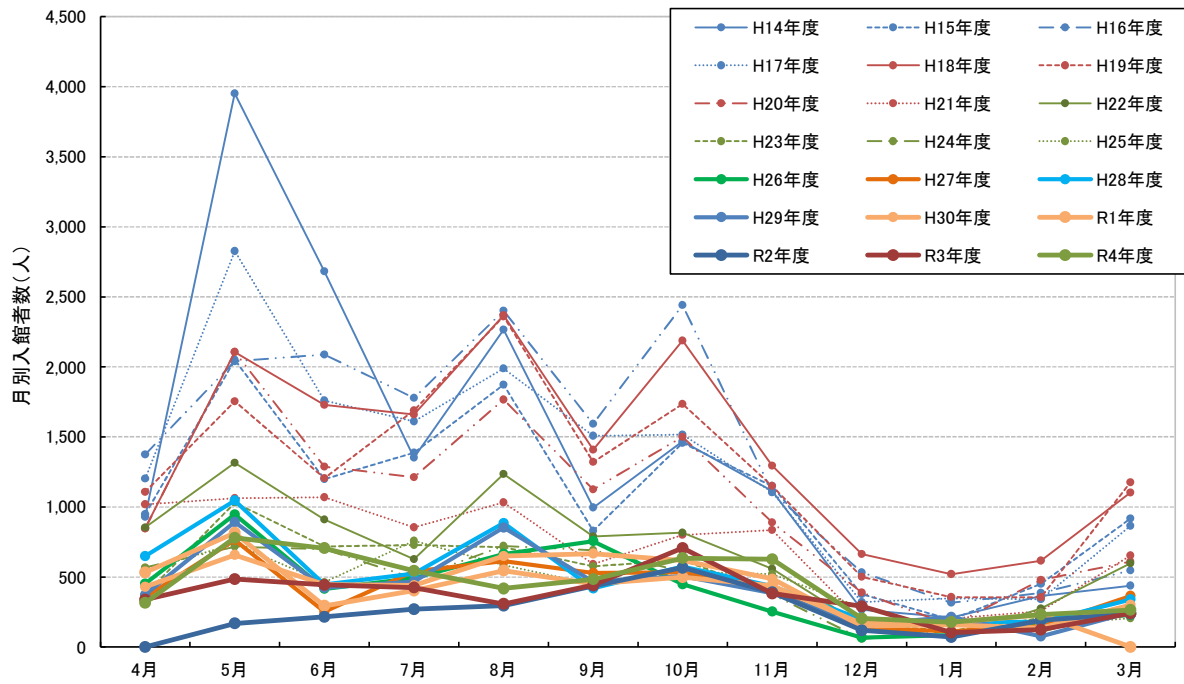


図 7.4-8 わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター) の月別入館者数

平成 14 年度から令和 4 年度までの「わくわく RiverCan」の見学団体数および見学者数を図 7. 4-11 に示す。

団体としての見学は学校関係の団体の見学が多く、その他に行政関係、自治関係、福祉関係の団体が見学を行っている。

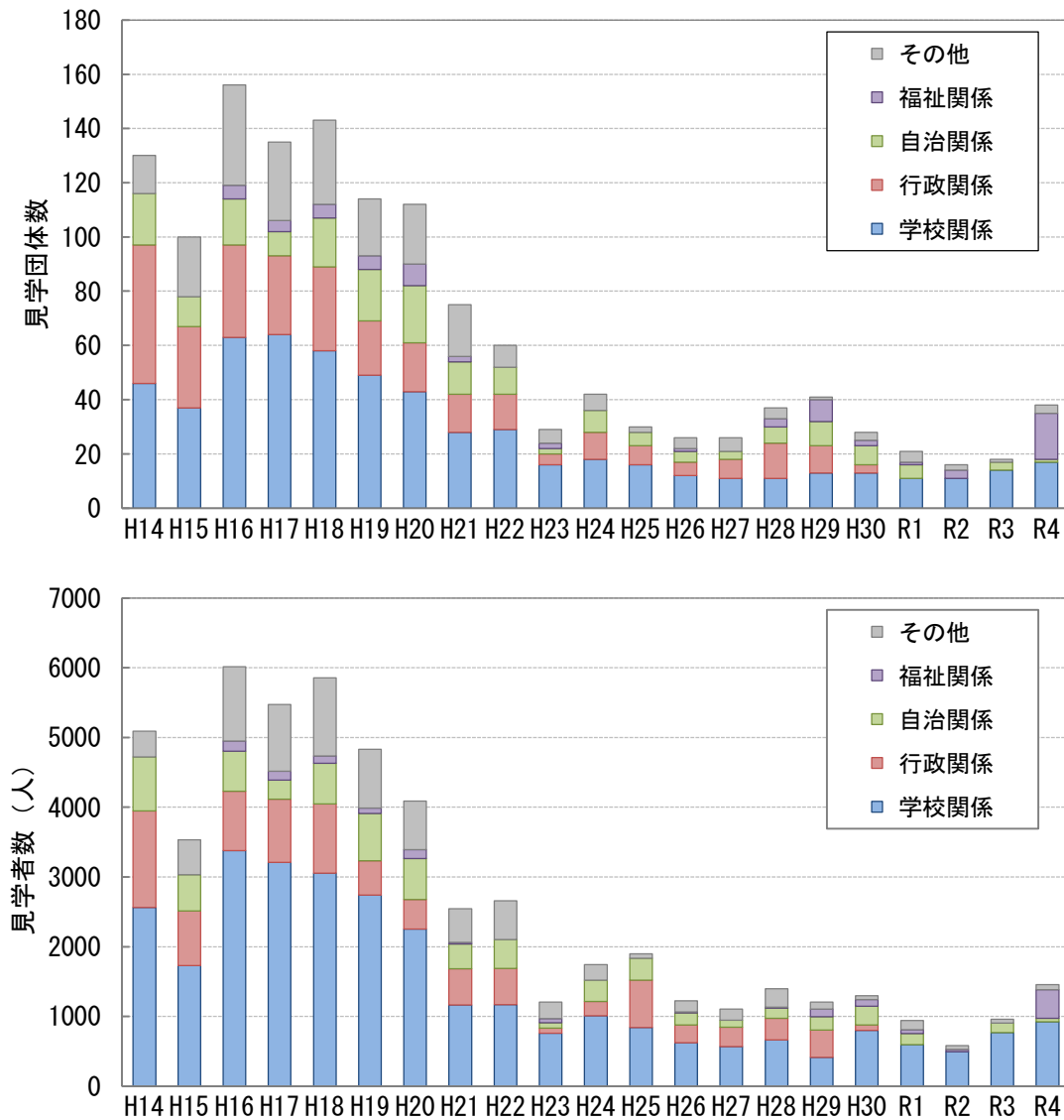


図 7. 4-9 わくわく RiverCan の見学団体数および見学者数

【出典：鳴鹿大堰管理所提供データ（種類別見学団体数・人数）】

(2) 利用内容

1) イベントの開催

「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」や鳴鹿大堰、九頭竜川周辺ではさまざまなイベントが実施されている。令和4年度のイベントおよび環境学習の実施状況を表7.4-2に示す。

表 7.4-1 イベント・環境学習実施状況

月 日	イベント名	目的・内容
5月29日 (日)	2022 フリースタイルカヤックサーキット「禅カップ」	県内初の2022 フリースタイルカヤックサーキットの第1戦北陸大会が永平寺町の中島河川公園内「ナミノバ」で開催された。フリースタイルカヤックは水上のロデオとも呼ばれるエキサイティングな競技。
7月17日 (日)	アグリ探検ツアー	JA福井県とFM福井がコラボ企画、「アグリ探検ツアー」を永平寺町でも開催し、永平寺町特産物の収穫後、「わくわく River CAN」の見学会を実施。
8月21日 (日)	九頭竜フェスティバル 2022 永平寺 大 lantern 流し	永平寺の僧侶による法要のあと、永平寺町河川公園の九頭竜川に先祖供養や家内安全などの願いを込めた lantern を流す永平寺町の夏の風物詩。バザーや打ち上げ花火も開催される。 ※20日実施予定が雨による増水で21日に順延



禅カップ チラシ

アグリ探検ツアー ～ わくわくRiverCan館 見学対応 ～

河川管理第二課

イベント名 : 農産物直売所 れんげの里 presents アグリ探検ツアー
 開催日 : 令和3年7月18日 10時30分(FM放送は21日10時)
 概要 : JA福井県とFM福井がコラボして企画(無料)
 参加者 : 子供22名 大人29名(福井県内の親子)



アグリ探検ツアー メニュー

- 永平寺町内農場にてスイートコーン収穫
 ↓
 鳴鹿大堰・わくわくRiverCan館 見学
- ✓ 2グループに分けて見学
 - ✓ 鳴鹿大堰の歴史DVD鑑賞
 - ✓ 管内模型の解説
 - ✓ 魚道観察室の見学



参加者の声

- ✓ 川のことを身近に考えるきっかけになった。
- ✓ 地元に住んでいるけど、わくわくRiverCan館を知らなかったので、来て良かった。

主催者の声

- ✓ 鳴鹿大堰のことがよくわかる施設。また、利用させてほしい。
- ✓ 航空写真施設は、インパクトがあり、イベント効果が高い。

アグリ探検ツアー 概要(※令和3年度の概要)

第35回 九頭竜フェスティバル2022

永平寺 大燈籠ながし

祈りと願いを込めて。

2022.8.20(土)

会場 福井県永平寺町 九頭竜川永平寺河川公園

お問い合わせ・登録申込み(供養燈籠・願い燈籠)
 TEL. 0776-61-3921 FAX. 0776-61-2474
 E-mail shoko@town.eiheiji.fukui.jp

主催: 九頭竜コンフォर्ट/財団実行委員会
 後援: 永平寺町 / 福井県大山永平寺 / 福井県 / (公社) 福井県観光連盟

九頭竜フェスティバル2022 永平寺大燈籠ながし

令和4年8月20日(土) 15:00 ~ 21:00

15:00 ~ バザー、子供縁日
 18:30頃 ~ 大燈籠法要 大木山永平寺の役所・聖地から大燈籠・燈籠の燃焼
 大燈籠ながし 1万基の燈籠が光の帯をつくります
 打ち上げ花火

※拝観料 大人2,500円
 大木山永平寺による法要を閉鎖してご覧いただけます。

大燈籠ながしについて 事前申込は令和4年8月10日(日)まで

このたび、8月20日に35回目を迎えます「永平寺大燈籠ながし」の開催をご案内いたします。
 皆様からお申し込みいただきました燈籠は、実行委員会にて納蓄し「組み立て」いたします。当日永平寺河川公園の特別祭壇(供養燈籠のみ)に並べ、普賢宗大本山永平寺の役所・聖地から大燈籠(法名と戒名・法名の読み上げ供養)の後、清流九頭竜川にお流しします。
 ◎燈籠ながしののち、回収します。翌日お精進法要を行い、お焚き上げさせていただきます。
 ◎当日、会場での受付もできます。当日受付をしていただいた場合のみ、ご自身で流すこともできます。

供養燈籠 一基1,500円
 ◎お亡くなりの方(ご先祖様)を供養するための燈籠です。
 ◎原則として、燈籠一基につき供養費一人でお申し込みください。
 ◎戒名・法名等を燈籠に記して流します。

願い燈籠 一基1,000円
 ◎願い事を燈籠に記して流します。
 ◎当日
 ◎願い燈籠に記して流す際にも事前に大本山永平寺でご祈願させていただきます。

交通のご案内

悪天候等の場合
 フェスティバルは、今年も例年通り予定しておりますが、台風や集中豪雨など天候が不安な場合は、河川公園での法要・燈籠ながしは中止とし、大木山永平寺法堂において法要を挙げる場合があります。当日は緊急連絡先が責任を持って九頭竜川に燈籠を流します(燈籠代はご返戻いたしません)。

お申し込み・お問い合わせ先
 九頭竜フェスティバル実行委員会事務局
 〒910-1133 福井県吉田郡永平寺町河原町1-4 (永平寺町公民館内)
 電話: 0776-61-3921 FAX: 0776-61-2474
 永平寺大燈籠ながしHP: <http://www.town.eiheiji.fukui.jp> E-mail: shoko@town.eiheiji.fukui.jp
 専用の申込用紙に必要事項を記入してお申し込みください。
 (申込用紙が手元にない場合はご一読ください)

一乗谷分限伝説博物館 開館記念
 越前朝倉万灯夜
 令和4年8月20日・21日 18:00から
 一乗谷 龍虎伝説博物館
 詳しくは、HP: <http://www.town.eiheiji.fukui.jp>

永平寺 大燈籠流し チラシ

2) 小学校からの見学

「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」では、小学校からの見学を受け入れており、地域の子供たちの防災・環境教育に貢献している。見学した子供達から感謝状をもらい、鳴鹿大堰の役割や環境について理解が深まったとの声が届いている。

〈見学した子供たちの感想〉

- ・鳴鹿大堰は九頭竜川の流れを調整してることがわかりました。鳴鹿大堰は洪水になる前に安全に流す、九頭竜川に詳しい場所だと思いました。
- ・鳴鹿大堰の形が鹿と舟を表していることがわかりました。
- ・魚の通る場所を魚道ということがわかりました。



図 7.4-10 見学の様子

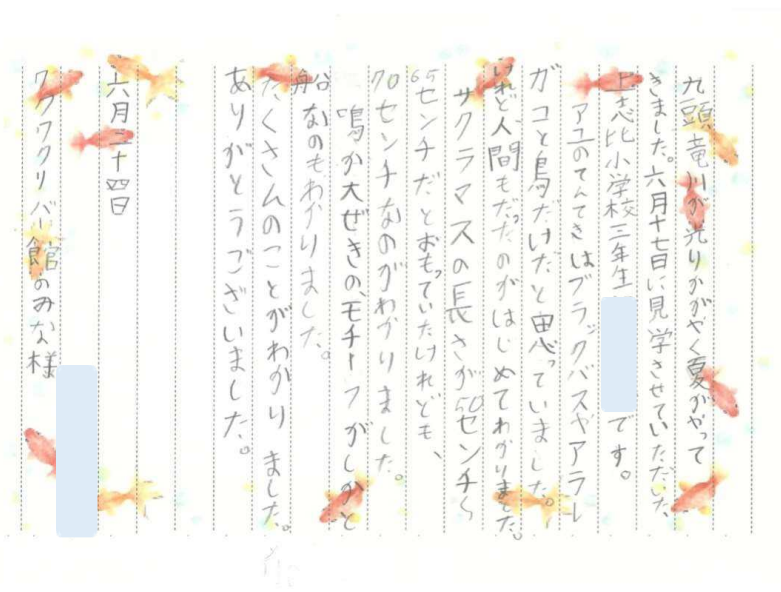


図 7.4-11 見学した小学校からいただいた感謝状

3) ダムカードの配布

鳴鹿大堰管理所、及び「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」では平成19年度からダムカードの配布が行われている。ダムカードの配布数は年々増加傾向にあったが、令和2年2月28日から10月末まで、新型コロナウイルスの影響でダムカードの配布を中止しており、令和2年度の配布数は少なくなっている。令和4年度の配布数は合計2,499枚で、近5ヶ年の配布枚数は9,400枚に達している。

配布中のダムカードを図7.4-14に、近5ヶ年の配布数の推移を図7.4-15に示す。



図 7.4-12 配布中ダムカード

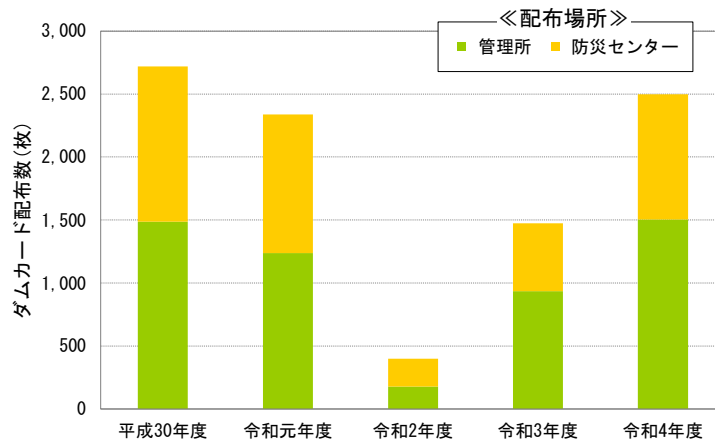


図 7.4-13 ダムカード配布数の推移

【出典：鳴鹿大堰管理所提供データ (ダムカード配布数)】

4) 自転車の駅

九頭竜川堤防上の自転車歩行者専用道の利用を促進するために、わくわく RiverCan は「自転車の駅」としての認定を受け、自転車用の空気入れや簡易工具の貸し出し、トイレの提供を行っている。



「自転車の駅」に認定



わくわく RiverCAN 前の駐輪スタンド



図 7.4-14 堰周辺の自転車の利用環境

(3) 利用者からの意見・要望

「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」の利用者から平成 30 年度から令和 4 年度の間に寄せられた主な意見および要望を以下に整理した。

表 7.4-2 利用者からの意見・要望

施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年研修を兼ねて回っている。 ・ 旧鳴鹿橋の足下の方が金属の腐食が見えるので不安。足下の方に人工芝等のマットをひき、補修してもらえると良いと思った。 ・ 魚道や近くに水面が見えるのでとても良い施設だ。 ・ 旧鳴鹿橋からの眺めが良い。 ・ 足下が危険なので補修して欲しい。 ・ 景色がとても綺麗で、ずっと眺めていられる程だった。また来たいと思った。 ・ 良く考えて建設されていると感じた。 ・ こんな素晴らしい施設だとは思わなかった。九頭竜川のことがよくわかるようになっている。再度ゆっくりと来たい。 ・ 景色もいいし、カフェがあるといい。 ・ 来館者記入がめんどろ。 ・ 建物天井の雨染みが残念。
展示内容	<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工作が沢山できた。 ・ 工作コーナーが充実している。
	<p>【展示物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魚をもう少し増やしてほしい。 ・ お客さんも魚にエサをあげられるようにしてほしい。 ・ アユやサクラマスの上のデータが見たい。遡上調査結果を整理してほしい。 ・ 九頭竜川に成育する魚類の展示(鮎、なまず、うなぎ、カニ等々)。 ・ 川の生き物を見たりするとき、子どもでは見えないので台の設置がしてあると見やすくて良い。 ・ いろんな展示があり楽しめたが、床の流域マップが古いので新しくした方がいいのでは。 ・ どんぐりの置物の顔がかわいい。 ・ 動くものが多いと子どもも見やすい。
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何回説明を聞いても感心するばかりだ。 ・ 午後の見学だったが朝だと良かった。
広報・PR	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚の遡上する時間帯を教えて欲しい。

【出典：九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ年次報告書】

定期報告書

7. 堰と周辺との関わり

7.5 河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）結果

九頭竜川では、3年毎に河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査)を行い、河川の利用状況を調査しているが、最新の調査は平成26年度に実施されている。

鳴鹿大堰の近隣では、下流の松岡河川公園(永平寺町上合月地区、27.0~28.0km)において利用実態調査が行われている。同公園では、マレットゴルフ場を中心に芝生広場やせせらぎ水路等が整備されており、平成26年度調査によると、主に散策、マレットゴルフ、水遊び、魚釣り等に利用されている。利用者数は、推計値で32,888人となっている。



【出典：平成26年度 九頭竜川河川水辺現地調査(植物)他業務報告書 平成27年3月】

図 7.5-1 鳴鹿大堰周辺の利用状況

表 7.5-1 九頭竜川河川敷公園(27.0~28.0km)の平成26年度年間利用者数(推計値)

	利用形態別				利用場所別				合計
	スポーツ	釣り	水遊び	散策等	水面	水際	高水敷	堤防	
利用者数	27,373	1,752	24	3,739	1,421	355	30,175	937	32,888

(単位 人)

【出典：平成26年度 九頭竜川河川水辺現地調査(植物)他業務報告書 平成27年3月】

7.6 川の通信簿調査の結果

平成30年に、下流の松岡河川公園(永平寺町上合月地区、27.0~28.0km)において川の通信簿調査が行われた。

この結果、総合的な成績は、四つ星(相当良い)と高い評価を受けている。

川の通信簿(永平寺町上合月地区)

～川の親しみやすさの成績表～ 川の通信簿

個所名：九頭竜川 永平寺町上合月地区

豊かな自然の中で体を動かそう！ レジャーを楽しむ河川空間

■永平寺町上合月地区はこんな所

河川名	1級河川九頭竜川水系九頭竜川左岸27.0K~28.0K
所在地	福井県吉田郡永平寺町上合月
アクセス	えらぜん鉄道勝山永平寺線 松岡駅より徒歩約10分
面積	約17ha
管理者	永平寺町
特徴	松岡町河川公園として、マレットゴルフ場を中心に芝生広場やせせらぎ水路、駐車場などが整備されている。 五松橋より下流側の水際には、石礫の河原があり、自動車による河川敷へのアプローチが可能である。 毎年、六月の第一日曜日に「松岡九頭竜フェスティバル」が開催される。
主な利用	散策、マレットゴルフ、犬の散歩、魚釣り など
利用者数	199人/日(平成30年8月5日(日)調査実績)
点検参加人数	20名



■平成30年現在の成績表

総合的な成績：☆☆☆☆(四つ星：相当良い)

No.	点検項目	現状の状況			整備必要%	重要度			
		良い	普通	悪い		非常に重要	重要	普通	不要
1	豊かな自然を感じますか	○			25%		○		
2	水はきれいですか		○		30%		○		
3	流れている水の量は十分ですか		○		35%		○		
4	ゴミがなくきれいですか		○		40%		○		
5	危険な場所がなくて安全ですか		○		25%		○		
6	景色はいいですか	○			5%			○	
7	歴史・文化を感じますか		○		10%			○	
8	堤防や河川敷には、近づきやすいですか	○			10%		○		
9	水辺へ入りやすいですか		○		15%			○	
10	広場は利用しやすいですか	○			10%		○		
11	休憩施設や木陰は十分ですか		○		70%			○	
12	散歩はしやすいですか	○			15%		○		
13	トイレは使いやすいですか		○		60%			○	
14	案内看板はわかりやすいですか		○		40%			○	
15	駐車場は使いやすいですか	○			10%		○		

良い点 悪い点

■特に良い点

- ・景色がきれい。
- ・人が多すぎない。

■特に悪い点

- ・トイレを多くして欲しい。
- ・小陰や休憩場が欲しい。
- ・管理棟の位置を変えて欲しい。

■総合コメント

- ・気軽にスポーツや散策、釣りなどの様々なレクリエーションを楽しむことができます。
- ・一方でトイレを多くしてほしいや木陰や休憩場がほしい等の要望などの要望がありますが、広場はきれいに管理されています。
- ・今後は、川に親しむ空間として、施設の充実を図っていくことが望まれます。

7.7 まとめ

7.7.1 堰と周辺地域との関わりのおまとめ

鳴鹿大堰が位置する九頭竜川流域では、人口は平成 12 年をピークに、産業別就業人口は平成 7 年をピークにそれぞれ減少に転じている。一方、観光面では流域内の観光入込客数が福井県内の約 7 割を占め、歴史・文化や水と緑などの自然に恵まれた観光地が多く点在している。また、鳴鹿大堰が立地する坂井市と永平寺町においては、九頭竜川を地域の資源として有効に活かした交流軸の形成や観光の振興等を地域づくりの目標に掲げている。

鳴鹿大堰の周辺では、鳴鹿大堰建設事業の一環として「わくわく RiverCan (九頭竜川流域防災センター)」を整備して、九頭竜川に関する様々な資料を展示するとともに環境学習の場等として提供し、小学生以下の子供から大人まで幅広い年齢層に利用されている。「わくわく RiverCan」は、近年では年間およそ 5,000 人強の利用者があり、開館以来の総入場者数は約 180,000 人に達している。また、「自転車の駅」に認定され九頭竜川堤防のサイクリング利用の促進にも貢献している。

「わくわく RiverCan」以外にも、管理所 1 階の鳴鹿大堰を紹介する展示や魚道観察室、旧鳴鹿堰堤を活かした見学橋などを整備し、周辺地域に暮らす人々、訪れる人々に活用されている。

7.7.2 今後の方針

地域のイベントや環境学習などの場を引き続き提供していくとともに、快適な利用のための維持管理を行っていく。

教育委員会とも連携し、地域の学校の総合学習の場としていく。

自転車の駅としての「わくわく RiverCAN」の広報に努めていく。

7.8 文献リスト

表 7.8-1 「7. 堰と周辺地域との関わり」に使用した文献・資料リスト

NO.	文献・資料名	発行者・出典	発行年月	引用ページ・箇所
7-1	九頭竜川水系河川整備計画	国土交通省 近畿地方整備局	平成 19 年 2 月	7. 1. 1 堰周辺地域の概要
7-2	国勢調査結果(市町村の人口) 福井県ホームページ 福井県統計年鑑	福井県	昭和 30 年～ 令和 2 年	7. 1. 1 堰周辺地域の概要 7. 2 堰事業と地域社会情勢の変遷
7-3	岐阜県ホームページ 岐阜県統計書	岐阜県	昭和 30 年～ 令和 2 年	7. 1. 1 堰周辺地域の概要
7-4	国勢調査結果 (世帯数・産業別就業者数)	総務省統計局	昭和 30 年～ 令和 2 年	7. 1. 1 堰周辺地域の概要
7-5	近畿地方整備局管内道路網図	国土交通省 近畿地方整備局	—	7. 1. 2 堰の立地特性
7-6	九頭竜川流域誌	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成 14 年 3 月	7. 1. 2 堰の立地特性
7-7	九頭竜川鳴鹿大堰工事誌	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成 18 年 3 月	7. 2 堰事業と地域社会情勢の変遷
7-8	坂井市総合計画	坂井市	平成 25 年 3 月	7. 3. 1 地域における堰の位置づけに関する整理
7-9	永平寺町総合振興計画	永平寺町	平成 20 年 3 月	7. 3. 1 地域における堰の位置づけに関する整理
7-10	九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ 年次報告書	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成 25 年～ 令和 5 年	7. 4. 2 堰周辺の施設の利用状況
7-11	鳴鹿大堰管理所提供データ (種類別見学団体数・人数)	福井河川国道事務所 鳴鹿大堰管理所	平成 14 年～ 令和 4 年	7. 4. 2 堰周辺の施設の利用状況
7-12	鳴鹿大堰管理所提供データ (ダムカード配布数)	福井河川国道事務所 鳴鹿大堰管理所	平成 25 年～ 令和 4 年	7. 4. 2 堰周辺の施設の利用状況
7-13	平成 26 年度 九頭竜川河川水辺 現地調査(植物)他業務報告書	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成 27 年 3 月	7. 5 河川水辺の国勢調査(河川 空間利用実態調査)結果